

談話室



“DTP の現状と動向” に対するコメント†

小町 祐 史†

本誌・デスクトップパブリッシング特集の“DTP の現状と動向”¹⁾の 4.5 “フォント, グリフ” に記述されたフォントの標準化に関する内容につき, 誤解と判断される箇所を見出した. またこれまでの筆者の経験では, 情報処理・出版分野の方々の話しの中にも, 類似の誤解が見受けられることがしばしばあった. そこで, 下記 AFII の Board Member としての立場から, 特にコメントを談話室に寄稿して, 誤解の拡散を防ぎたい.

(1) AFII

AFII (Association for Font Information Interchange) はフォント著作権の登録をする機関ではない. AFII は, グリフ (Glyph) とグリフ集合 (Glyph Collection) の識別子の登録作業を行う. それらの登録手続きを ISO/IEC 10036²⁾ が規定する.

(2) グリフ

ISO/IEC 9541-1³⁾によれば, グリフはデザインとは独立の抽象グラフィック・シンボルである. そこで字形, 字体を, JIS X 0208-1983⁴⁾の解説に

示されたように定義する (それぞれ, 注1, 注2) とき, グリフは字形ではなく, 字体にはほぼ等しいものとするべきである⁵⁾.

注1: 字形

実際に文字が書かれたり印刷されたりしたときに実現する図形.

注2: 字体

表現された字形の基礎にある文字概念で, 個々の文字を識別する要素としての点画の組み合わせ方をいう. すなわち, 字体は抽象的なものであり, 具体的には字形として実現する.

参考文献

- 1) 村山 登: DTP の現状と動向, 情報処理, Vol. 31, No. 11, pp. 1483-1494 (1990).
- 2) ISO/IEC DIS 10036, Procedure for registration of glyph and glyph collection identifiers, ISO/IEC (1990).
- 3) ISO/IEC DIS 9541-1.2, Font information interchange—Part 1 Architecture, ISO/IEC (1990).
- 4) JIS X 0208-1983, 情報交換用漢文字符号系, 日本規格協会 (1987).
- 5) 異体字に関する調査研究報告書, 日本規格協会 (1990).

(平成3年1月9日受付)

† Comments on “DTP Today and Future” by N. Murayama by Yushi KOMACHI (Matsushita Graphic Communication Systems, Engineering Research Laboratory).

† 松下電送(株)技術研究所

小町氏のご意見に対するコメント†

村山 登†

1. AFII について

全く小町氏のご意見のとおりで, AFII は機関の名称は Association for Font Information Inter-

change なのに ISO 10036 が規定する Glyph Identifier の登録をする機関です. しかしデザインと密接に関連する Font Information のための AFII がなぜデザインと独立な Glyph の Identifier を登録するのでしょうか. 今に Font Information も扱うつもりなのでしょうか.

† Comments on Dr. Komachi's Opinion by Noboru MURAYAMA (RICOH R & D Center).

† (株)リコー中央研究所